



笹小だより No. 7

平成29年10月31日
横浜市立 笹野台小学校

芸術・文化の秋

副校長 岩間 洋

後期の学習がスタートし、子供たちは新たな目標をもって学習に取り組んでいます。

後期は遠足や社会科見学等、校外へ出て行く活動やゲストティーチャーを招いての学習が多く、子供たちにとって新しい体験をする学習活動が行われています。

5年生と個別支援学級の宿泊体験学習、6年生の市体育大会、1、2年生の遠足、3年生の校外学習やケアプラザ訪問、また、水道局や企業の出張教室、芸術鑑賞教室も行われ、子供たちに充実した教育活動を展開することができました。今月は4年生の区音楽会や宿泊体験学習が予定されています。

創造力や知恵は実際の体験や活動から学ぶことが多いです。何かができるようになるためには本人の努力が必要ですが、様々な体験を積み重ねることにより、子供たちは多くのことを学び、成長していけるのです。子供たちの体験や活動の一つ一つの積み重ねが「生きる力」につながると思います。

この秋、いくつかの音楽会を鑑賞する機会がありました。希望が丘中学校の合唱コンクール、希望が丘中学校区のオータムコンサート、笹野台地区社会福祉協議会主催の敬老会の演奏などを鑑賞させていただきました。各学校の児童・生徒の合唱や吹奏楽の演奏、各学校のPTAコーラスの演奏、また、地域のコーラス団体や器楽の演奏など、どの演奏も質が高く、この地域の文化度の高さを感じることができました。

今、本校ではスクールコンサートに向けての練習が佳境に入り、どの学年もそれぞれの学年にふさわしい発表に向けて頑張っています。合唱クラブの活動も含めて学校全体が音楽に取り組んでいる姿を見てうれしく思っています。

音楽を聴く、演奏する等の活動は、感性を育み、心を耕すことにつながります。合唱や合奏は一つの音の個性が共鳴し合い、重なり合い、響き合って作られます。そのためには子供たち全員の意識・気持ちを一つにして歌う・奏することが大切です。一つの曲を全員で共有することによって、みんなの意識・気持ちが一つになります。

合唱のよさは人と人との心のつながりが生まれることです。人の声と自分の声を重ね合わせてハーモニーを作り出していく喜び、曲のもつ内面世界に入り込んで自分の声で表現する喜びもあります。

一人で演奏するのと違い、他の人と音を合わせ、気持ちを合わせて互いに聴き合いながら演奏しなければ本当に美しいハーモニーは作れません。合わせようとする心、よりよいものを作り上げようとする気持ちが何よりも大切なのです。だからこそ音楽は子どもたちの心を耕し、コミュニケーション能力を高めていく大切な教科だと言えます。音楽で培われた「力」が子供たちの生きる力となり心の豊かさを育てる一助になればと願っています。

「一人で歌えば灯りがともし、二人で歌えば小径をつくり、みんなで歌えば広場ができる」

11月9日（児童鑑賞日）、10日（保護者鑑賞日）の2日間は学校の体育館がコンサートホールになります。保護者の皆様も、家で練習していたお子さんの姿や、お子さんから聞いた学校での練習の様子を思い浮かべながら、鑑賞していただけたら嬉しいです。

笹野台小学校合い言葉

元気いっぱい

やさしいっぱい

笑顔いっぱい

心かがやく笹小キッズ

笹野台小 Web

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sasanodai/>

検索

横浜市立笹野台小学校